

2018年5月5日 (土)

BIO MimETICS

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第77回 北海道とバイオミメティクスを考える

その1 バイオミメティクスの動向

生物学と博物館学から見た バイオミメティクス動向

北海道大学総合博物館

大原 昌宏

バイオミメティクスに関わる生物学の技術的側面はリバーズエンジニアリング（逆行工学）とそのアナロジーが認知過程に有効かもしれない。生物学の目的は生命現象の認識にあったがその範囲は生態系、生物圏、持続可能な地球生命へと広がり社会学へも影響を与えている。バイオミメティクスは持続可能な社会構築のための技術であり生物学との協働は欠かせない、はず。さて、うまくいっているのだろうか。バイオミメティクスの社会実装には博物館が機能する、はず。ダイアログ（対話）のための生物学と博物館学の立ち位置と事例をご紹介します。



&



生物は模倣によって進化し、生物多様性を生み出すことで生き残ってきました。この生物の“英知”を人間が模倣して、人間の「モノづくり」に役立てようとするのが、バイオミメティクスです。現代社会は人間の技術体系を推し進めた結果、資源、エネルギー、環境などに問題が出てきました。私たちの生活を持続するためには、“持続可能な開発目標（SDGs）”の設定が必要な状況に迫られています。この課題にバイオミメティクスがどのように立ち向かっているのかを、特に今世紀になって発展したナノテクノロジーの観点から世界を俯瞰します。

ナノテクノロジーから見た バイオミメティクス動向

北海道大学電子科学研究所

居城 邦治

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
協賛：千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター
北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX.011-706-4029
E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

会場：北海道大学総合博物館/1階 「知の交流」
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分

